

令和7年(2025年)9月11日

報道機関各位

函館市消防本部庶務課

行事の取材依頼について

このことについて、下記のとおり実施いたしますので、取材方よろしくお願
いいたします。

記

行 事 名	消防協力者表彰
日 時	令和7年9月22日(月)午前10時30分から
場 所	函館市消防本部5階 防災多目的ホール
被 表 彰 者	1. <small>みやわき ゆきえ</small> 宮脇 幸枝 2. <small>みさわ しょうへい</small> 三澤 祥平 3. <small>よこやま はるみ</small> 横山 晴美 4. 50代男性(匿名希望)
内 容	令和7年(2025年)5月22日(木)午後1時27分頃、 函館市中島町3番23号先路上において、心肺機能停止状態 に陥った傷病者を現場に居合わせた4名が連携して救命処置 や救急要請をするなど、傷病者の救命に大きく貢献したこと に対し、消防長から感謝状と記念品を贈呈します。

〔 庶務課庶務係 〕
22-2142

《 報道関係者用 》

中島町3番23号先路上で発生した心肺停止救急事案に
協力した市民への感謝状贈呈について

1 協力した団体および市民

(1) 協力者①

氏名 みやわき ゆきえ 宮脇 幸枝
職業 会社員

(2) 協力者②

氏名 みさわ しょうへい 三澤 祥平
職業 会社員

(3) 協力者③

氏名 よこやま はるみ 横山 晴美
職業 自営業

(4) 協力者④

氏名 非公表
職業 非公表

2 対象救急事案

(1) 覚知日時

令和7年5月22日（木） 13時27分

(2) 事案発生場所

函館市中島町3番23号先路上

(3) 傷病者

68歳 男性

(4) 傷病者の傷病状況等

ア 収容医療機関

市立函館病院

イ 傷病名

急性冠症候群

ウ 搬送後の経過

令和7年6月24日（火曜日）に市立函館病院を退院している。

3 通報内容

「70歳代男性，意識なし，呼吸なし，顔面紅潮，失禁あり，胸骨圧迫実施中，AEDあり」との119番通報。

4 活動概要

協力者①が自家用車を運転し，共愛会病院側から亀田川沿いの道路を走行中，一時停止の標識で止まった際，歩道上に傷病者が倒れているのを発見，付近に車両を停車させ現場に向かい，傷病者に対して呼び掛けを行なうも反応がなかったため119番通報した。

さらに，付近を通りがかった協力者②は，倒れている傷病者の顔色が紫色で，脈がないことを確認し，直ちに胸骨圧迫を開始した。

また，協力者③は付近店舗で勤務中，付近路上で倒れている傷病者を確認，毛布を持って駆け付けたところ，心肺機能停止状態であったため，協力者④にAEDの手配を依頼した。

依頼を受けた協力者④は，付近に設置されていたAEDを持って現場に駆け付け，AEDのパッドを準備し，胸骨圧迫中の協力者②に渡した。

AEDパッドを受け取った協力者②はそのまま装着し，音声ガイダンスに従い除細動（電気ショック）を1回実施後，消防隊が到着するまで，胸骨圧迫を継続して行った。

5 功績の事実

協力者は，倒れている傷病者を発見，予断の許さない状況

下において、冷静沈着に傷病者の意識状態を把握し、迅速に救急要請を実施した。また、駆け付けた協力者と連携し、心肺機能停止の状態を正しく判断、学んだ救急講習の知識と技術を最大限に活かして胸骨圧迫を実施した。さらに持参されたAEDを装着して除細動を実施、「救命のリレー」をスタートさせ、救急隊に引継いだ結果、傷病者は自己心拍および自発呼吸が再開後、後遺症なく社会復帰することができている。

協力者の連携による一連の行動は、そのひとつでも欠けていれば傷病者の救命には繋がらなかったものと考えられ、その功績は多大である。

なお、傷病者を収容した市立函館病院救命救急センター医師から「この救急事案は、複数のバイスタンダーが連携して、直ちに用手胸骨圧迫を開始、継続するとともにAEDによる電気ショックを実施したことが奏功したものである。また、心停止の早期認識、迅速な119番通報および一次救命処置という救命の連鎖を途切れることなく速やかに繋がれたことが、傷病者の救命の大きな要因になったと評価できる。」とのコメントを頂いている。